

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	てくてく*療育教室		
○保護者評価実施期間	令和6年2月1日		令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和6年2月1日		令和7年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> 利用者一名または二名につき、スタッフ一名がついて支援を行っている。 学期ごとに療育の様子や支援内容を記載した個別のお便りを発行している。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当のスタッフを決め、一年間継続して支援を行うことで、より連続的にその子の発達を見ていくことができる。 個別課題においても、集団活動においても、常に一名のスタッフががついているため、きめ細やかな支援を行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つの曜日の利用人数を5名ほどに調整し、一対一でスタッフがつき支援を行えるようにする。
2	<ul style="list-style-type: none"> 1回の児童発達支援の療育で、個別学習の時間と集団での活動の時間の両方を設けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 静の活動と動の活動を組み合わせることで、集中して取り組める。 来所後にそのままの流れで座って作業課題を行うが、集団活動で体を動かした後にももう一度学習を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 静と動の組み合わせ方や時間配分の調整を行い、その集団の子ども達にとってより良い学びがあるように工夫する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 保育園等への送迎時、先生方ともその子の特性や支援の内容について情報共有ができ、連携した支援を行える。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段から児童発達支援で行った内容やその子の様子を伝えるように心がけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 送迎時の情報共有だけでなく、実際に児童発達支援を行っている様子を見に来ていただき、支援内容について確認する機会を設ける。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援の利用希望者に対して、十分な空きがない。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後等デイサービスと合わせた定員となっているため、午後からの放課後等デイサービスの利用人数を考えると受け入れられる人数や曜日に限りがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 放課後等デイサービスの利用人数との調整、実施曜日の検討を行う。
2	<ul style="list-style-type: none"> 保護者に実際の療育の様子を見ていただく機会があまりない。 	<ul style="list-style-type: none"> 仕事をされている保護者の方が多いので、なかなか療育の様子を見ていただくのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に保護者の方に見に来ていただく機会を設ける。
3	<ul style="list-style-type: none"> まだ保育園等によっては、関係づくりができておらず連携が難しい場合がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育園等の先生方の困り感が少ない。 児童発達支援でどのようなことをしているかが分からない。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援会議等を開催し、その子の発達特性や困り感、支援内容等について情報共有を行う。 実際に児童発達支援を行っている様子を見に来ていただく。